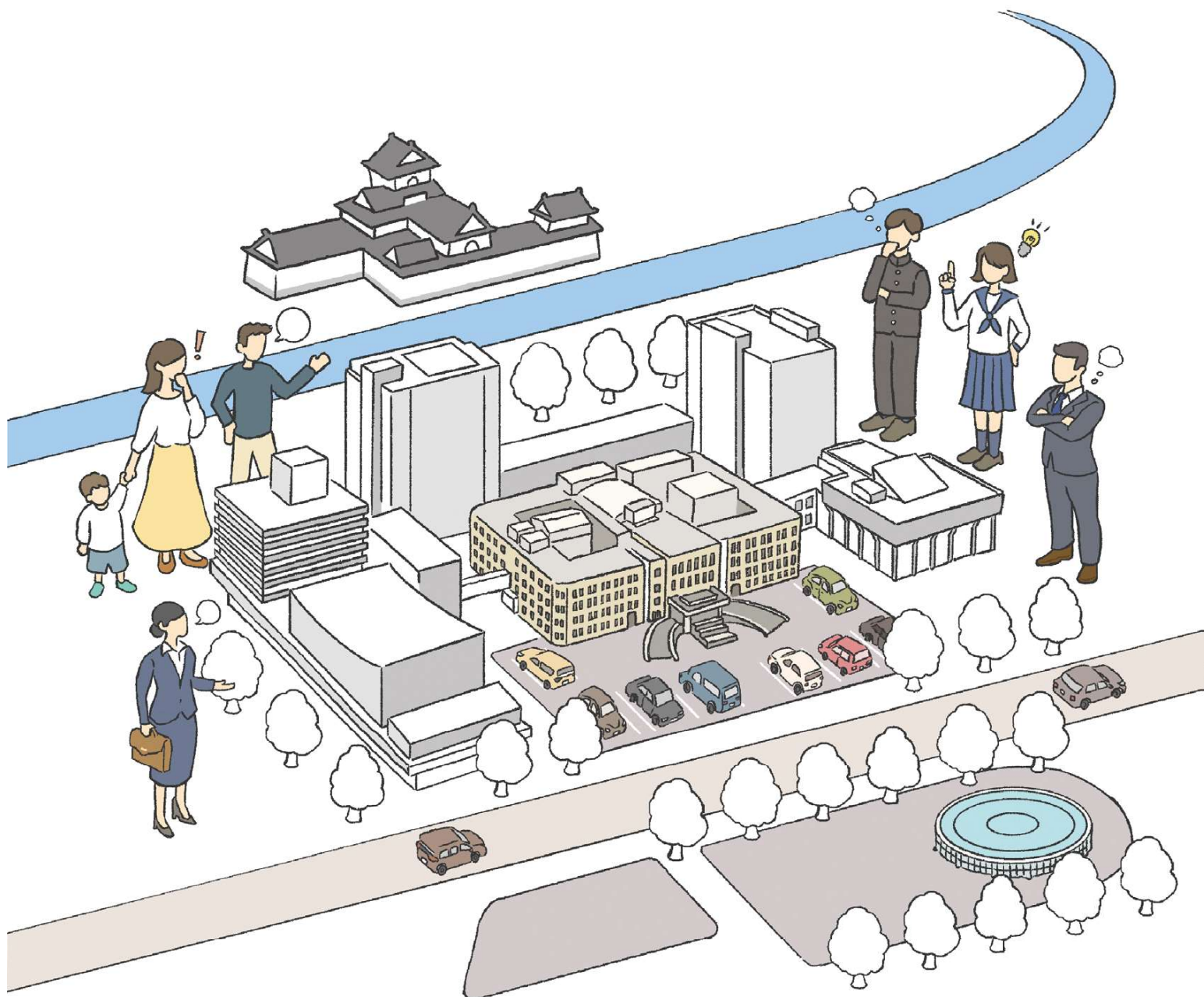


県庁周辺エリア コンセプトブック



令和7年3月

富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会・富山県

この場所から、 富山を新たな時代へ牽引する。

富山城、廃川地、戦災復興、松川…

まちづくりの歴史の変遷において、このエリアは常にまちに息吹を与えてきました。

富山の未来を見据えた時、県庁を中心としたこのエリアの魅力を高めることは、
全県的かつ中長期的な価値の創出につながります。

富山県は、県民の皆さまとともに、このエリアのありたい姿の実現に向け、
持続可能なまちづくりにチャレンジしています。

わたしたちの課題

富山のまちの中心で歴史資源を持ち
水辺や公園空間を備えたエリア
その資源や環境を有効活用したい

広大な公有地において
まちづくりの活動やプレイヤーを増やし
まちなかの活性化に寄与したい

このエリアをこれからの時代にふさわしい
富山を代表する都市空間に変革して
県全域に付加価値を上げたい

History

江戸期

明治～昭和戦前期

昭和戦後期

平成～現在

城下町 行政と賑わいの中心地

天文12年に築城された富山城は、まちなかで大きく蛇行する神通川により造られた自然堤防上に整備された。神通川は天然の外堀として活用され、江戸期に64艘の船を鎖で繋いで架けられた舟橋は、立山連峰の景勝と合わせて全国に知れ渡る名所であった。



出典: ColBase
(<https://colbase.nich.go.jp/>)

出所: 富山市街美測図(明治26年)
(富山市郷土博物館所蔵)

廃川地 近代都市の形成

明治期に入り、水害を防ぐために神通川の直線の分水路を造る馳越線工事が行われた。旧川筋(現松川)は廃川地として埋め立てられ、県庁舎・市庁舎・電気ビル・神通中学校などが立地し、都市の中心に新しくまちが誕生した。



出所: 富山都市計画事業概要
(富山市郷土博物館所蔵)
(90°回転して掲載)

出所: 昭和初期の神通川廃川地
(富山市郷土博物館所蔵)

戦災 先駆けた復興都市計画

昭和20年8月1日深夜の富山大空襲により、富山の市街地の99.5%が焼失した。戦後、戦災復興都市計画が策定され、現在の城址大通りと平和通りを中心街路と位置付け、富山駅周辺と商店街地区の二大開発拠点構想が掲げられた。



出所: 富山市
未来に語り継ぐ富山大空襲の記憶

都市課題 まちづくりの実践

中心市街地の空洞化が大きな課題となる中、富山市は全国に先駆けてコンパクトシティ政策を推し進め、公共交通を軸とした歩きたくなるまちを目指してきた。富山県は富岩運河環水公園や松川べりなどの水辺空間を活かしたまちづくりを進めてきた。



©(公社)やま観光推進機構

県庁周辺エリアの 3つのありたい姿

富山のまちの中心に位置する立地特性や歴史的な意義、水辺や緑の良好な環境…

このエリアの価値を最大限に高め、新たな時代に向けて

富山県の都市競争力を高める「核」となるため、県庁周辺エリアの「3つのありたい姿」を描きました。

01

憩いとゆしみ あなたの幸せ

歴史・水辺・緑を生かした憩いとゆしみの空間を形成する、訪れる人にとって「ウェルビーイング」なエリア

02

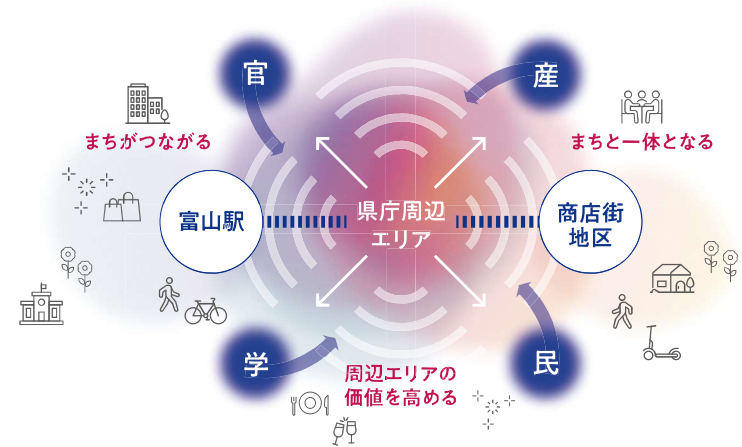
まちにつながりと 一体感を醸成する

周辺街区との連続性・回遊性を高め、まち全体ににぎわいの好循環をもたらすエリア

03

県全域に 付加価値を届ける

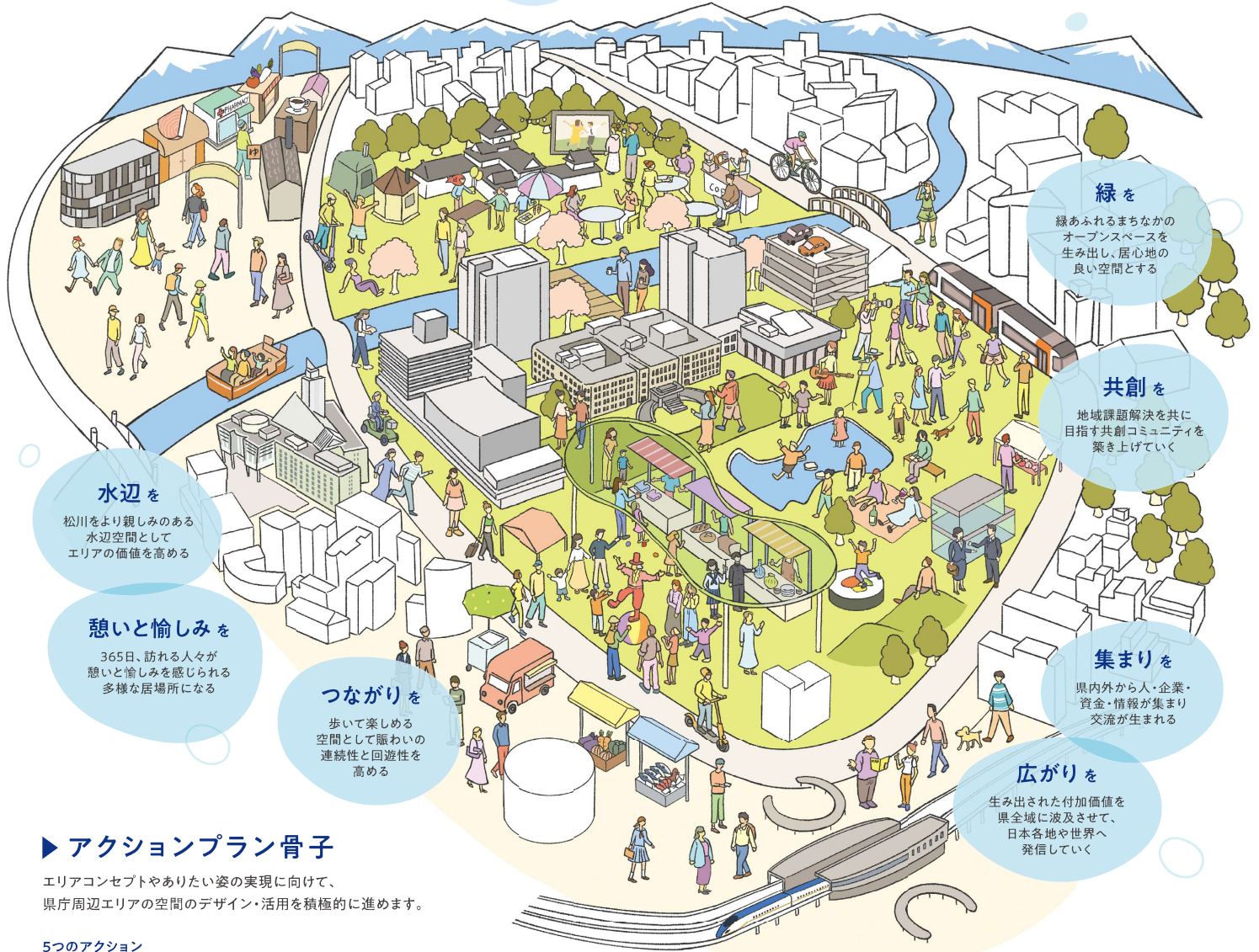
県内外の多様な人材が集まり産学官民連携が行われ、富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア



周辺エリアの
価値を高める

▶ エリアコンセプト

いつでも、歩くたびに…を感じる。



緑を

緑あふれるまちなかのオープンスペースを生み出し、居心地の良い空間とする

共創を

地域課題解決を共に目指す共創コミュニティを築き上げていく

集まりを

県内外から人・企業・資金・情報が集まり交流が生まれる

広がり

生み出された付加価値を県全域に波及させて、日本各地や世界へ発信していく

水辺を

松川をより親しみのある水辺空間としてエリアの価値を高める

憩いとゆしみを

365日、訪れる人々が憩いとゆしみを感じられる多様な居場所になる

つながりを

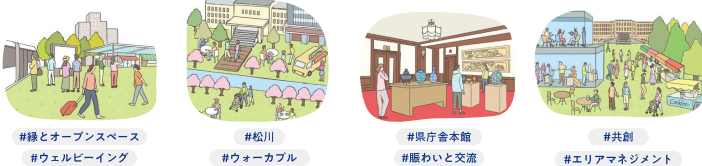
歩いて楽しめる空間として賑わいの連続性と回遊性を高める

▶ アクションプラン骨子

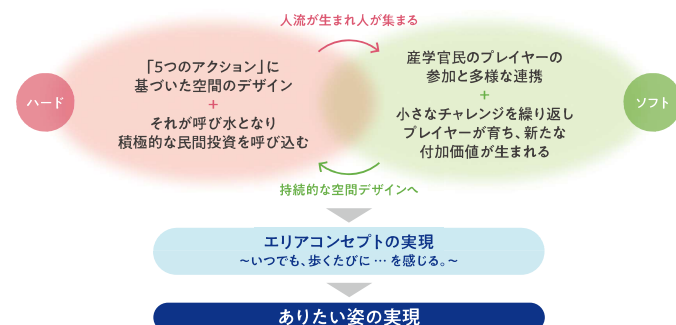
エリアコンセプトやありたい姿の実現に向けて、県庁周辺エリアの空間のデザイン・活用を積極的に進めます。

5つのアクション

- 01 ウォーカブルで一体的な歩行者空間を生み出す
- 02 まちなかにおける緑のオープンスペースを創出する
- 03 松川べりを憩いの水辺空間として魅力を向上させる
- 04 歴史ある県庁舎本館をまちに開かれた賑わい拠点として複合的に活用する
- 05 富山駅～商店街地区との連続性・回遊性を高める

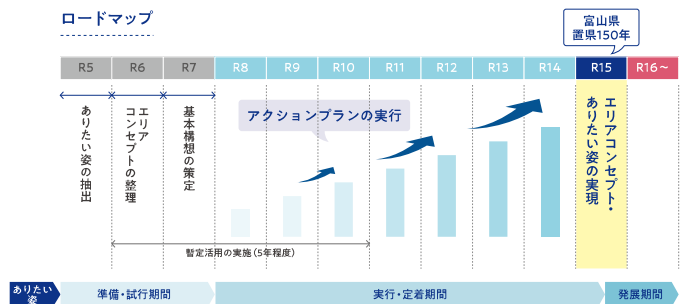


エリアマネジメントの視点



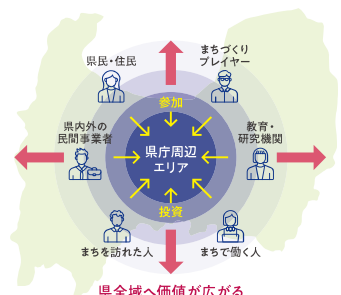
▶ 未来に向けて

ロードマップ



あなたとともに、未来を創り上げていく

未来に向けて、県庁周辺をもっと素敵な場所にするためには、皆さんの力が必要です！行政だけに任せるのではなく、富山県に関わるすべての主体が実行者となり、この場所ならではの多様なプロジェクトを共に創り出しましょう。ここで生まれる価値を県全体に広げ、一人ひとりのウェルビーイングを実現し、新たな社会経済システムを構築してまいります。さあ、一緒に。あなたが輝く未来へ！



▶ 県の支援

- 県は、富山市など関係者との対話を重ねながら、エリアコンセプトやありたい姿の実現に向けた具体策を策定し、実行に移します。
- まちづくりプレイヤーの発掘・育成および民間投資の呼び込みを進め、すべての主体が実行者となるよう伴走支援を行います。

NHK跡地(芝生・アスファルト・砂利敷)を活用していただけるプレイヤーを募集しています。
使用料は無料で、電気、給排水設置済みです。
短期利用や令和10年までの複数年利用も可能です。
是非、イベント等でご活用ください。

(県担当窓口)

民間活力導入・財産活用課

Mail:ml-kanminrenkei@pref.toyama.lg.jp

TEL:076-444-8904

イベント等の実施に
活用可能な補助メニューは
二次元コードから
ご確認ください



富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会

齋藤 滋 (富山大学学長)
品川 祐一郎 (富山商工会議所副会頭)
難波 悠 (東洋大学大学院教授)
西村 幸夫 (東京大学名誉教授
國學院大學観光まちづくり学部学部長)
牧田 和樹 (富山経済同友会代表幹事)【座長】
新田 八朗 (富山県知事)※特別委員
藤井 裕久 (富山市長)※特別委員